

コミック系アダルト同人誌の入手方法の選択と その意識に関する調査と考察

高砂 哲

昨今インターネットの普及によって音楽や漫画のデータ販売、これらを無料で入手できる Web サイトが増加している。これらの利用は安価または無料で済み、店頭までの移動費や手間もかからない。全体的なコストが低く、経済的合理性の高い手段である。一方、店頭に赴き、代金を支払い、コンテンツを「モノ」として入手する消費者も存在する。この手段は前者と比べて経済的合理性が低い。そのような手段がとられる理由に興味を持った。

本研究では、コンテンツを手に入れる際に、一部の消費者が経済的合理性の高い手段があるにもかかわらず、その手段をとらずに「モノ」として購入するのは何故か。これを明らかにすることを目的とする。また、コンテンツを「モノ」として手に入れる消費者の特徴がより顕著に表れるコミック系アダルト同人誌を研究の対象とした。これらの主な読者はいわゆるオタクと呼ばれる人々である。「アダルトコンテンツは自らの性欲を満たすために購入されることがほとんどであるが、コミック系アダルト同人誌の購入についてはそれ以外にも同人誌即売会という場の性質などの他の要因がある」という仮説を立てた。

先行研究としては、田川(2009)の研究が挙げられる。田川はオタクをアイデンティティ問題であると捉えることが必要だとしており、またオタクに関連する実証的な研究がほとんど存在しないことを今後の課題としている。そこで、本研究では彼らオタクの体験や行動を実際に調査し、それに基づいて結論を導く。

調査の主な対象はコミック系アダルト同人誌を「モノ」として購入したことのある男性とした。彼らに対して半構造化インタビューを行い、同人誌即売会に対する印象や「モノ」にこだわる理由、自らをオタクであるとする根拠などを明らかにした。

8名にインタビューした結果、コミック系アダルト同人誌を「モノ」として購入する理由として大きく2つの要因があることが分かった。1つは「古い友人に会える」「同じ趣味を持った仲間と会える」というような、同人誌即売会という場に参加することから生じるメリット、もう1つは「紙媒体である方が仲間と共有しやすい」というような品物が「モノ」として存在することから生じるメリットである。また、現在もコミック系アダルト同人誌を「モノ」として購入している調査対象者全員が、代金を支払うことによってコミック系アダルト同人誌の作者に敬愛を表すことを重要視している。性の対象が実写であるアダルトビデオと実写でないコミック系アダルト同人誌はともに性的満足を得るためのものであるが、本研究の調査対象者はコミック系アダルト同人誌を敬愛し、保管している。

アダルトコンテンツは自らの欲望を満たすために購入されることがほとんどであるが、それがオタク文化の文脈を通すことで、コミュニティの形成や紙文化の保持、作者に対する敬愛のような個人の欲望に留まらない結果に派生する。本研究ではこれを結論とする。

(指導教員 後藤嘉宏)